

学 校 通 信

小竹だより



開校60周年臨時号

練馬区立小竹小学校 校長 佐藤 正文

R2.6 No. 5 5 7

昭和 55 年 1980 年 小竹小学校 20周年 記念誌と学校通信

校長 佐藤 正文



【20周年を記念して作られた滝のある池】

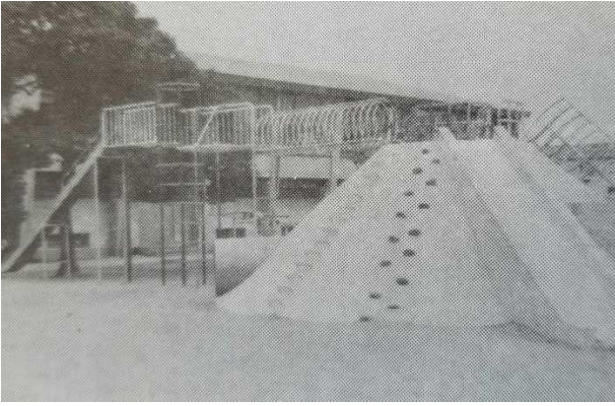
今回は、20周年記念誌と記念号として発行された学校通信より、歴史を振り返ります。

20周年記念誌の特徴としては、小竹小に通う子供たちが小竹小学校の歴史や地域のことが分かりやすく知ることができるように社会科副読本として発行されたことです。

当時の第4代校長 吉丸秀幸 先生は、巻頭のあいさつで「この二十年間は、昔のなん十年、なん百年にもそうとうするほど、世の中のようにすも、人々の生活も、考え方も、大きくう

つりかわった時期」だと記しています。日本が高度経済成長をしてきた時代です。小竹小学校の学校規模は、この10年間毎年約600名の児童数と17・18学級規の学校でした。

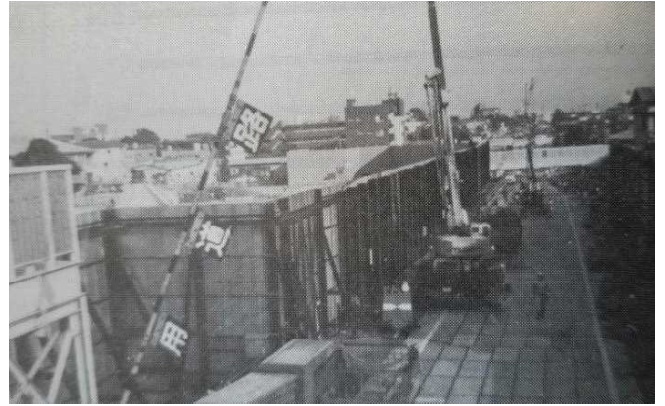
さて、記念誌の内容は、「小竹町のうつりかわり」と「学校のうつりかわり」の二部構成となっており、小竹町の歴史を江戸時代から明治・大正・昭和、そして戦後から現在までを分かりやすく写真を添えて説明されています。先生方はもちろん、地域の方々の協力があり、立派な冊子として完成しました。



【昭和 51 年に完成した新しい遊具】

子供たちに大人気のデラックスプリンです。現在の場所に移設されたのは昭和 57 年。以前はプール側サッカーゴール辺りにありました。

学校通信記念号の座談会からは、3 回行われた増改築も昭和 50 年に完了し、現在の建物となったこと。昭和 54 年 3 月、地下鉄工事が始まったことが話されています。二十年の歩みの中でこの工事はとても大きな出来事のひとつです。記念誌の中には「工事のために、校庭の約 3 分の 1 がけずられ、昭和 53 年頃から、東側にあった小竹の森、農園、西側・南側の樹木、プールなどが、移されたり、取り壊されたりしま



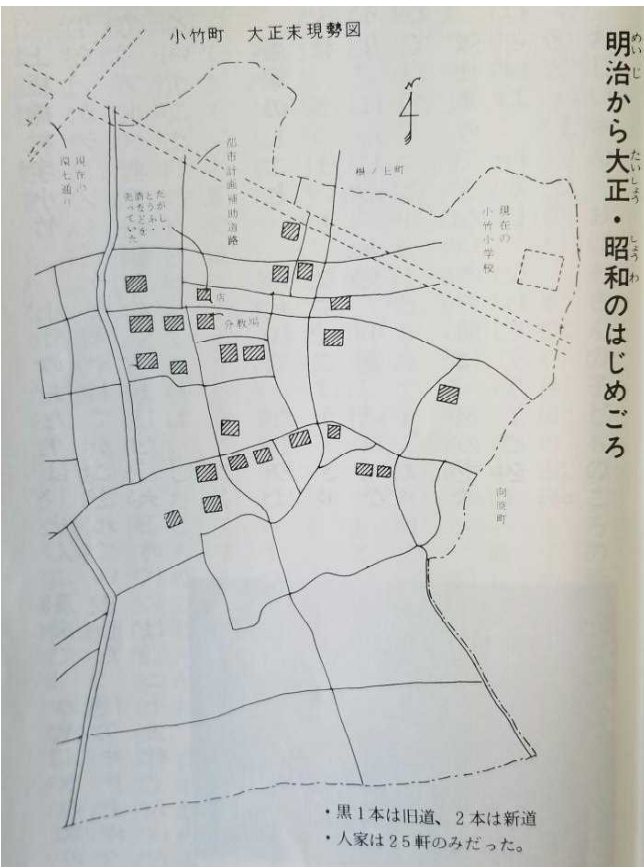
【校庭下 三六道路トンネル工事の様子】

した。ダンプ道路ができたために、引っ越しをしたお友達も大勢います。小竹小学校の児童の数も少しずつ減り始めています。校舎の真下に大きなターミナル駅が出来上がる昭和 57 年以後は、この付近の様子も、きっと変わることでしょう。」とあります。

令和 2 年、校庭の木々が立派に育ち、この町で暮らす人々が安心して憩うことができる環境です。工事の計画段階から工事完了までの期間、その後の環境維持等々、多くの関係の皆さんの思いが今の風景にあると感じます。

座談会の中で当時区議会議員、元小竹町会長の梅内正雄様は「三十周年には、また、緑がいっぱいになるようにしていきたいですよね。」と、笑顔でお話されたのでしょうか。

学校・保護者・地域がひとつになり、前向きに歩んだ道のりです。(7月臨時号につづく)



【昭和 20 年頃 (1925 年) の小竹町】